

平成28年度学校関係者評価委員会報告書（見るべき項目）

世田谷区立深沢中学校(平成29年2月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

- ・回収率 全学年で340通の回答があった。回収率は95%である。
- ・生徒の教育活動に対する評価「授業の内容はよく理解できる。」82%、「学校全体で部活動は充実している。」77%、「友達と学校で活動するのは楽しい」91%「毎日の学校生活が楽しい」85%等と全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。
- ・「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」62%、「先生は誰に対しても公平である。」61%、「進路に関する情報を十分提供してくれる。」68%等は、肯定的回答が昨年より数%向上し、わからない率も減少しているが、さらなる向上を目指し、引き続き一人一人の話にしっかりと耳を傾け、生徒個々を見ていく努力を希望する。
- ・「自分には良いところがある」65%、わからない率21%となっており、特に1・2年生は肯定的評価が低い。これは学習面中心に回答しているようなので、いろいろな面に目を向け、学習面でなくとも良いところがあると前向きに考えられるよう働きかけ、肯定的回答80%以上を目指す。
- ・学び舎の活動については、否定的回答が28%、わからない率22%なので、どのように生徒と児童が交流する機会をもたせるかが課題である。

II. 保護者のアンケートより

- ・回収率 全学年で326通の回答があった。今回は358通のアンケートを配布したので、回収率は86%、昨年度同様の回収率である。
- ・全体としては肯定的回答が多いものの、学習指導については3項目、部活動についても3項目、肯定的評価の割合が減少しており、その他においても昨年同様か微減の値が多くみられる。
- ・今年度は校舎の工事により、格技室や体育館での活動が制限されたことにより、保護者全体での進路保護者会が開催できなかったり、部活動の場所に苦慮したことが大きく関係していると思われる。
- ・通知表評価については、生徒たちに対しては納得が得られるまで説明している。保護者に対しても引き続き理解してもらえるよう説明していくことを望む。

III. 地域の方のアンケートより

- ・回収率 学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員)など47名にアンケートを送付し、28名から回答をいただいた。回収率は60%で昨年より10%下がっている。これは母数が少ないゆえに1名であっても大きく左右される。配布する範囲を広げるかどうか検討が必要である。
- ・地域からの教育活動に対する評価は、ほとんどの項目について肯定的回答が寄せられている。
- ・わからない率について、20%以上の回答が3項目ある。また、地域との連携・広報活動について否定的な回答が増加している。
- ・工事によって、本校に来ていただく機会が著しく減ったことが要因と考えられる。来年度は新校舎にランチルームが増設されているので、そこをうまく利用し、地域の方々に関わっていただく機会を増やしていく必要がある。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

- ・「学校の重点目標が明確である」という評価項目では、肯定的評価が保護者において65%、わからない率22%、地域において84%、教職員において90%であり、教職員は重点目標への取り組み項目すべてにおいて、昨年度より微減している。
- ・学校の重点目標について、その目的も含め学校だよりや学年だより等様々な方法で保護者に周知していく努力を要するとともに、教職員内においても共通理解を深めていく必要がある。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、保護者の肯定的評価が61%で昨年同様。地域の肯定的評価は67%で2%増である。
- ・学校協議会の項目では、保護者の肯定的評価が63%で昨年より3%増加したが、わからない率は24パーセントで昨年と変わらず。地域の肯定的評価は64%で昨年より8%減、わからない率は29%で昨年より8%増加している。今年度は場所的な問題もあり、十分機能することができなかった。来年度は内容の見直し・検討とともに、周知方法の改善を望む。
- ・PTA活動については、活動の見直し・スリム化を行っている中、教職員からは大変良好な評価を得ている。一部だけに負担が偏ることなく、引き続き保護者の学校への協力体制が継続的に行われることを望む。
- ・学校は地域の活動や行事によく協力しているの項目では、保護者の肯定的評価が74%で昨年より1%減、地域では78%で4%減と昨年に引き続き微減している。問題が大きくなる前に、学校や生徒と地域との関わり方を見直し、改善に向けて検討することを望む。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・進路指導(キャリア教育)における保護者の評価については、1-Ⅱの3項目を参照。情報伝達方法の工夫を要する。
- ・学習指導において生徒の「授業の内容がよく理解できる」の項目は、82%と数値目標を超えている。さらに維持・向上させていく努力を望む。
- ・教科「日本語」の全方位的評価は、昨年より肯定的評価の割合が増加している。日本語の充実について工夫・改善、指導体制の研修を、引き続き推進していくことを願う。
- ・生活指導においては、保護者・生徒・地域すべてのアンケートで、肯定的評価が昨年度の数値より減少している。原因を探索すると同時に、学校の生活指導方針や生徒の学校での様子を様々な方法で家庭に伝えていく努力、教職員内で学校のきまりやルール、対応の仕方などの確認と共通理解を図るといった改善が重要である。
- ・道徳教育においては、全方位的な点検・評価の中で、各教科等との関連を図った指導について肯定的評価が10%以上減少している。全体での指導計画の見直しなどの改善をお願いする。
- ・学校行事においては、生徒の自己肯定感が高まるよう、今後も事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力をお願いする。
- ・相談活動においては、今年度復活したあいあいタイムを継続し、今後も生徒・保護者と学校との信頼関係が保たれていくことを望む。
- ・部活動において、来年度は校庭での活動が制限される。教育委員会から部活動休業日の指示が予想される等、土日の活動も困難を伴うと思われるが、活動の工夫と指導をお願いする。
- ・先生について、「先生に指導されたことは納得できる」は、肯定的評価が81%と高い数値であり、これを維持できるよう教職員と生徒の信頼関係を構築していくことを願う。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・おおむね良好な評価である。
- ・保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である校長のリーダーシップのもと、教職員が協力して教育活動に励んでいる様子について、保護者や地域にきちんと伝わっていることがうかがえる。
- ・来年度は仮校舎の解体、校庭の改修工事があり、新校舎での学校生活も始まる。新しい環境を整えながら、安全指導や安全管理が適切に行われることを望む。

V. 教育環境の整備について

- ・全方位的な点検・評価でも、訓練について肯定的評価が減少しているので、方法の見直しを行い、適切な対応ができるよう整備されることを望む。
- ・昨年より本校施設の安全性について、保護者の肯定的評価が微減している。新校舎の安全性や新たな工事内容について、本年度以上に保護者へ対し積極的に情報提供し、周知と理解を徹底する努力を要する。

Ⅵ. 学校生活全般について

・生徒アンケート「毎日の学校生活が楽しい」85%、「深沢中が好きである」85%、保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」83%、独自項目「友達と学校で活動することは楽しい」91%と、生徒・保護者ともに充足度がかかなり高いといえる。
・一方保護者のわからない率が微増加しており、肯定的評価が昨年より微減している。
・生徒の自己肯定感が高められるよう、心の教育を推進していくことを願う。

Ⅶ. 数値目標について

①授業の内容はよく理解できると思う生徒の割合 80%以上を目指す。	<評価結果	82%
②友達と学校で活動することは楽しいという生徒の割合 80%以上を目指す。	<評価結果	91%
③地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合 80%以上を目指す	>評価結果	78%

・③だけが数値目標を達成できなかった。
・①、②の継続した指導体制、③の方法整備が望まれる。

Ⅷ. 「学び舎」の目標について（今年度より独自項目生徒アンケート実施）

①自分にはよいところがあると思いますか。	<評価結果	63%
②友達と学校で活動することは楽しいですか。	<評価結果	91%
③自分が住んでいる地域は好きですか。	<評価結果	81%

・学び舎で設定した数値目標の結果「①の自分にはよいところがあると思いますか。」は発達段階を考慮しても低い値であり、次年度への課題である。この報告書でも何度もふれているが、生徒が自己肯定感を高められるよう、学習面だけでなく、学校行事や部活動、地域行事などいろいろな場面で活躍できる機会を作り、生徒が前向きになれる指導を強く願う。

3 全方位的な点検・評価について

Ⅰ. 全方位的な点検・評価の方法は適切であるか

・適切に実施されたといえる。

Ⅱ. 全方位的な点検・評価の結果の内容は適切であるか

・おおむね適切な内容といえる。
・しかしながら、昨年より10%以上肯定的評価が減少している項目やわからないとする項目があるので、原因を調べ改善していくことを望む。

Ⅲ. 全方位的な点検・評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

全方位的な点検・評価に対しての分析・改善案はコメントも含め妥当である。保護者や地域の認識とズレがある部分やすぐに実施可能な改善案への積極的なアプローチを望む。

4 学校の課題及び学校への提言

○アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
○地域との連携においては、協力関係を強め、生徒が地域の一員として自覚を持って活躍できるよう取り組み方法を改善し、状況を保護者や地域へタイムリーに発信していく努力を行うこと。
○情報発信に関し、学校だよりや学年だより等の効果は高い。ホームページに関しては、まずアクセスしてもらいやすい工夫をし、情報発信のツールとして活用できるようにさらなる改善を強力に行っていくこと。
○学習指導において、おおむね良好な評価を得ているが、わからない率の増加、肯定的評価の微減がみられる。アンケートの実施・分析を通し、高い水準が維持できるよう改善努力を行っていくこと。
○道徳においては、各教科との関連を図った指導がなされるよう工夫・改善し、推進していくこと。
○教科「日本語」においては、今後も共通理解をもち、研修等を通して指導の工夫・改善を強力に推し進めさらなる充実を図っていくこと。
○生活指導においては、職員の入れ替わりの中で、指導方針や指導内容を明確化し、「安全・安心な学校」を目指して一致した指導体制を今後も推進し、課題解決に向けて努力していくこと。
○学校行事においては、今年度も生徒の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒に主体的な活動ができるよう促し、よりよい行事となることを目指すこと。
○相談活動においては、スクールカウンセラーと連携し、今後も生徒の心の変化を捉え、早期に対応する体制を進め、常に生徒が安心して学校生活を過ごせるようにしていくこと。
○進路指導においては、キャリア教育(進路指導)＝進学指導でなく、生徒一人一人が将来にわたり職業人として生きていく力を身に付けていく指導であることを、今後も生徒・保護者に様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。また、進路の情報提供にあたっては、保護者のニーズにできるだけ応えていく努力をすること。
○部活動等においては、工事により活動が制約される部もあるので、工夫しながら今後も3年間を通した生徒活動の充実を行うこと。
○学校の安全性、安全への配慮等は、さらに向上できるよう課題に取り組む。校庭の改修工事を踏まえて、保護者へ様々な機会をとらえて積極的にアピールしていくこと。
○大規模災害の対応について、学校ができること、各家庭がやらなければならないことを明確にし、保護者や地域に周知理解をさらに深めていくこと。
○一人一人の生徒が、学び舎の教育目標にある「自分大好き」と思えるように、校長の学校経営方針にある、「夢」を生徒に持たせ、自己実現ができる機会を設定・実践し、自己有用感、自己肯定感等を味わう経験を多く持たせるよう、改善・努力を行っていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び全方位的な点検・評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。
重点目標の数値を3項目中2項目達成したことは、学校の努力の成果であるといえる。重点目標についての周知、地域との連携についての課題については、生徒の自己肯定感向上にもつながるため、来年度の重要なポイントと思われる。仮校舎での限られた教育環境の中で、学校行事に対する生徒の満足度を高いまま維持し、「学校生活が楽しい」とする結果が、保護者83%、生徒85%と高い肯定的評価を得られたことは大変評価できる。
回収率を含め、高い水準を維持できたのは、校長が強力にリーダーシップを発揮し、教職員が一体となって努力してきた結果であるといえる。今後も校長のリーダーシップのもと教職員が一体となり一人一人の生徒のために最善を尽くしていくことを願う。

平成28年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会					
委員長	井坂 聡				
委員	青柳 義博	(事務局)			
	菅田 輝代志		山村 恵子		
	武田 泰子		山口 拓也		
	谷岡 美貴		佐藤 巧		
	島田 達彦		佐藤 哲		